

ASAHIKURA

小中高生のための

税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第58号

平成30年
12月

法人会長賞



立石小学校 6年
森山 凜さん

小学生の税に関する 絵はがきコンクール 第11回 優秀作品

最優秀賞

法人会女性部会長賞



甘木小学校 6年
芦谷 心渚さん

甘木税務署長賞



甘木小学校 6年
江藤 澄美さん

優秀賞



朝倉東小学校 6年
井上 松さん



金川小学校 6年
岡部 黎さん



立石小学校 6年
宮崎 咲英さん



金川小学校 6年
西田 夕夏さん



福田小学校 6年
倉富 菜々海さん



立石小学校 6年
岩崎 柗太さん



蜷城小学校 6年
重松 龍輝さん



※この作品は平成30年1月の受賞作品です。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「笑顔の源」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 坂田 菜夏

★福岡県久留米県税事務所長賞

「あなたの為に、人の為に」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 江上 由桂

「知らない内に救われていた」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 荒巻 沙耶

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「社会の現状を知り、税金を考える」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 中村 公哉

★朝倉市長賞

「税の大切さ」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 荻野 有紗

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「税金があることの大きさ」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 原野 結衣

中学生の優秀作文

★国税庁長官賞

「暮らしと税金」

筑前町立 夜須中学校
三年 下川 遥叶

★甘木税務署長賞

「福祉と税の結びつき」

朝倉市立 十文字中学校
三年 篠原 希望

「ありがとう」

朝倉市立 比良松中学校
三年 安部帆乃花

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金の大切さ」

朝倉市立 比良松中学校
三年 星野はるか

★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

「税金」

朝倉市立 甘木中学校
二年 貝島 漣

「税がなければ」

朝倉市立 比良松中学校
三年 柳原 真夢

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「税と僕たちの生活」

朝倉市立 南陵中学校
三年 野坂 直矢

★朝倉市長賞

「税金」

朝倉市立 比良松中学校
三年 高瀬ちえみ

★筑前町長賞

「学びの中の税金」

筑前町立 夜須中学校
三年 斉田さくら

★東峰村長賞

「税について」

東峰村立 東峰中学校
三年 和田 暖

★公益社団法人 甘木朝倉法人会賞 会長賞

「税について」

朝倉市立 甘木中学校
二年 荻野 美月



* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、四四八編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、五〇四編の応募があり、その中から十一編の作品が入選しました。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 坂田 菜夏

「笑顔の源」

私たちが毎日笑って過ごせる理由は何だろう。ある人は「安全に暮らせるから」と。またある人は「学校に行って友達と一緒に勉強ができるから」と答えるかもしれない。実は私たちが安全で安心して暮らせることも学校に行って友達と一緒に勉強ができることも、全ては税金のおかげなのだ。

私がこのような考えを持つようになったのは、毎年行われる「租税教室」というのが大きなきっかけだ。私は租税教室を通して、税金の必要性や税に対する理解を深めることができた。特に税金との関わりを深く感じられたのは、昨年七月五日に起きた九州北部豪雨の復興援助である。税金は豪雨災害で被害に

あった道路や建物などの身近な公共施設に使われていた。それだけでは足りない。税金は災害時にさまざまな場面で人々を援助してくれた自衛隊にも使われている。もし税金がない世界だったらならば、今よりもっと多くの犠牲者を出して、復興には何十年という時間がかかっていたにちがいない。この出来事を通して

私は「税金は私たちを助けてくれるヒーローのような存在であり、災害で被害にあわれた人々に災害後も前に進む勇気と希望をもたらしてくれたものでもある」と強く思えた。税金があるからこそ、今を生きている私たちは笑顔で毎日を歩めているのだ。私が大人になってもこの気持ち忘れずに持ち続けていき

たい。

しかし、現代社会の税金に対する人々の考え方は良いとはいえないだろう。確かに、毎日一生懸命働いて得られたお金から税金を納めることはとてもなぐ嫌にちがいない。だから、今、私たちのお父さんやお母さんだけでなく税金を納めてくれている人々には感謝しなければならぬ。そして、私たちが大人になった時には次世代の子どもたちが安心して、笑って過ごせるように税金をきちんと納めていきたい。それは、今まで税を納めてくれていた人々への恩返しにもなるだろう。生きることを楽しむことは笑って過ごせ

★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 江上 由桂

「あなたの為に、人の為に」

「税金」と聞いて、何を思うだろうか。支払うことで自分の為にもなっていることを忘れ、ただ支払わされているものだと

思っている人もいるのではないだろうか。また、自分の為にもなっているというより、支払わされているというイメージの方

ること。その笑顔の源となるものは税金である。このことを世界中の人々が考えるようになれば、税金は私たちにとってかけがえのないものになるだろう。



が強い人も、多いのではないだろうか。

しかし、実際の税金は、多くの人が思うものとは大きく異なる。なぜなら、普段、当たり前で執っている行動や目にしていくものには、かなりの確率で税金が関係しているからだ。例えば、図書館や市役所といった公

共施設の運営、学生の教育費。こんなことは自分に関係無いと思っている人、これらはどうでしょう。病院の運営、医療費の負担、ゴミの処理。一度も病院に行ったことが無い、ゴミを出したことが無いという人は居ないはずだ。これらにも、税金が使われている。当たり前になり過ぎて気付いていないだけで、あなたが支払った税金は、あなたの為にも使われている。さらに、公共サービスの面では、消防車や救急車、ドクターヘリを動かす為にも、税金が使われており、税金で人の命が救われている。

このように、あなたが支払った税金は、あなた自身の為にも、そしてあなた以外の人の為にも

使われ、あなたは税金を支払うことで、国民の役に立ち、国民の命を救える可能性を高めるのだ。つまり、税金とは、支払わされているだけのものではなく、むしろ自分にプラスの価値を与えてくれるものだ、私は考える。

とはいえ実は、私もこんな風に考えるようになったのは、つい最近のこと。元は、買い物をして消費税を支払わなければいけないことを、あまり良く思っていないかった。でも、私はある時をきっかけに、税金への抵抗を感じなくなつた。それは、「熊本地震」だ。この地震では、私が住んでいる地域も揺れを感じ、少なからず恐怖を覚えた。テレビでも、熊本県の被害状況が多く報道された。想像を絶する被害の大きさに、私は驚いたと同時に、「熊本県の人達の為に何かしたい」と思っていた。そんな時にテレビで、ヘリコプターで人が救助される映像を見て、私は消費税を支払っているから少しは役に立っていることに気付き、税金の良さ（税

金を支払って人の役に立つこと）が分かった。

このことが分かった今、私は大人になって支払う税金が増えても、しっかりと支払いたいと思う。加えて、税金の良さについて多くの人が知り、税金への抵抗を感じる人が少ない世の中になることを心から願う。

★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校
一年 荒巻 沙耶

「知らない内に救われていた」

私は、一番身近にある税金である消費税に対し、どうして払うべきか分からなかった。また、日本の憲法である「日本国憲法」に定められている意味までも理解していなかった。そして、税金が自分の暮らしに、どんなふうに関係しているのかも知らなかった。自分が税金に助けられていることも知らずに過ごしていたのだ。

私の家は、母子家庭である。父親のいない家庭である。しかし、自分は、毎日の生活を何不自由なく暮らしている。それがなぜか、疑問に思った。親が、悪に手を染めているわけでもない、普通の看護師だ。しかし、自分を含む二人の姉妹が何不自由なく暮らしているのか、調べてみた。すると、ある言葉が出てき



た。それは、「母子手当」という言葉と「一人親家庭」という二つの言葉であった。「母子手当」は、高等学校を卒業するまでの間一定の金額を貰えるものだった。だから、暮らしていているんだと思った。しかし、疑問が自分には、まだ残っていた。何も、自分の家庭だけが母子家庭、一人しか親がいないわけじゃない。日本には、他にもいっぱいいるはずだ。だとしたら、お金は足りなくなるんじゃないか。そう思ったのだ。私は「母子手当」について財源を調べてみた。すると、自分や、他の人も払っている「税金」であった。「税金」でまかなわれているということを知ったのだ。自分に関係ない、そんなことはなかったのだ。逆にいうと、自分は税金がなければ大変なことになってしまったのかもかもしれないのだ。「税金を払う意味が分からない」そんなことを考え、思っていた自分が、税金に助けられ、悠々自適に生きていく。何も知らなかった自分が、恥ずかしいと思った。だ

から、自分は、税金で救われたことを忘れないと思う。税金は、日本に住んでいる人全員が納めないといけない理由が、何となく分かった気がする。「みんなは一人のために、一人はみんなのために」という言葉が当てはまると思った。みんなが納めているものが、困っている人の救いになっている。だから、自分が成人して大人になったら「人のためになる」と思っつきちんと納めるようにしたいと思った。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会会長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 中村 公哉

「社会の現状を知り、税金を考える」

二〇一九年から消費税が十パーセントに引き上げられ、賛否両論ありますが、私はこれに賛成です。そのことを説明するため、まずは税金が現在どのようなことに使われているかを調べていきます。税金の用途は、公共事業関係費、経済協力費、社会保障関係費、文教及び科学振興費などに使われています。

具体的にみていくと、公共事業関係費は、道路や港、上下水道の整備、ダムの建設や農業の生産性向上のための支援に使われ、国の事業の推進に役立っています。経済協力費は、発展途上国への生活環境改善のための支援を行うために使われています。社会保障関係費は高齢者の年金や介護、生活困窮者のための生活保護に充てられていきます。後で述べますが、近年の少

子高齢化に伴い、この費用の増大が問題となっています。文教及び科学振興費は、小、中学校のような教育機関の環境整備、大学での研究開発の支援などに充てられています。このように税金は、国内外を問わず多くの人々のために使われています。

次に二〇一九年から消費税が十パーセントに引き上げられる理由を考えていきます。一つが、日本は少子高齢化で高齢人口が増えている、年金や福祉にかけられる費用が大量に必要なようになってきます。また日本は多くの借金を抱えており、今のままでは借金が増えていくばかりです。それを抑えるために、今後増収を増やしていく必要があると私は考えています。

しかし今の日本の現状では、多くの政治家は国民の反発を気にして、増税政策を避ける傾向

にあります。そして、国民の中には増税に反対している人々も少なくありません。しかし、日本の少子高齢化といった状況であれば、将来のために増税するべきではないかと私は考えています。そもそも他の国、主にヨーロッパ諸国は税率が高く、スウェーデンでは、消費税が約二十五パーセントもあります。増税は一時的に国民に負担を課すように見えますが、実際、税率の高いヨーロッパの国々では大学の授業料が無償であったり、社会福祉が非常に充実しています。そのため、例えば高い税を課したとしても、最終的に国民がその利益を受けることができます。増税政策というのは、世論を気にする政治家や、目の利益にとらわれがちな国民により、必要であるにも関わらず長年避けられてきた課題だと思えます。

国民一人ひとりが先を見据えた見方をすることが政治を変え、税のあり方を変えていく大きな力になると思います。その

為にも、高校生である私たちが、現在の社会状況を正しく知る賢さを持ちたいです。



★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 荻野 有紗

「税の大切さ」

税金とは。小学校の頃から租税教室などで学んできた税金。なんとなく知っただけであまり深くは知らなかった。私が税金についてよく考えるようになったのは中学校三年生の後半あたりからだ。なぜよく考えるようになったのかというと、それには2つの理由がある。一つ目は中学校三年生で習う公民で日本の政治を学び、その中で税金についてもくわしく習ったからだ。所得税や法人税、相続税といった国税、道府県税や市町村税と呼ばれる地方税、税を納める義務がある人と実質的に負担する人が同じものである直接税。また、直接税とは逆に税を納める義務がある人と実質的に負担する人が異なるものである間接税。これらの税金を学んだことで、税金についてよく考えるようになった。2つ目の理由は、中学

校三年生の冬に私に起こったことがきっかけだ。私は中学校三年生の冬、交通事故にあった。さいわい右足首の骨折と擦り傷だけで済んだのだが、本当に大変だった。車と衝突した時は、痛みよりも驚きがまさっていた。しかし、時間がたつにつれだんだん痛くなっていった。骨折なんて初めてで痛くて泣いていると、救急車が来て病院に行った。また、事故だったのでパトカーも来ていた。私はこの経験を通して考えた。「もし、税金がなかったら。「税金があったから、救急車を呼ぶことができ、すばやく治療してもらえた。そう考えると税金を払うことは大切だと改めて実感した。私たち一人ひとりが税金を払うことで、緊急事態の時に無償でパトカーや救急車、消防車を呼ぶことができる。したがって人の命を救うこと

ができる。私は自分が学んだことや、実際に自分が体験したことを通していかに税金が大切かを改めて感じた。税金は私たちの生活をより豊かにしたり、便利にしたり生活に欠かせないものである。税金を私たち一人ひとりがしっかりとおさめることで、だれかを助けることができるし、自分も助けもらうことができる。そう考えると税金のすばらしさを理解すること

ができる。私は税金に感謝しながら生活していこうと思いました。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 原野 結衣

「税金があることの大きさ」

日本では現在、八パーセントの消費税が、二〇一九年十月一日から十パーセントに増税される予定である。税金は、生活していく中で、すべての人に関わりがある。私は税金について特に二つのことについて考えた。

一つ目は、消費税である。消費税は、大人も子どもも関係なく、平等に課せられている税金である。その消費税が二〇一九年十月

一日に八パーセントから十パーセントに増税されるのだ。私は、増税は消費税が単純に二パーセント増えるということではないと考えた。例えば、パンを販売する時、小麦粉、卵、牛乳などそれぞれの仕入れ値にも消費税がかかり、材料費の負担が大きくなる。パンの販売価格を現在の価格より二パーセント以上上げなければ、経営が成り立たない。つまり、それぞれ

の材料費の負担を売り上げで補うために、生産者側も対策を練ったりと金銭面だけでなく、販売方法にも工夫がある。そう考えると、二パーセントの増税は世の中のあるりとあらゆるものに大きな変化をもたらすのだ。

そして二つ目は、公共事業関係費である。日本はここ数年で、記録的な豪雨や台風、地震など、自然災害の被害が相次いでいる。私は、被害にあった場所がすぐに復旧作業に取りかかれるのは当たり前だと思っていた。しかし、復旧作業をするのにはもちろん莫大な費用や人手が必要である。公共事業関係費は災害が起きた時の復旧作業のために使われている。もしこの税金がなかったら……直ちに、復旧させたいと思っ

ていても、その費用がなく、復旧させることができない。そうなると町のあちらこちらに壊れて通れなくなってしまう道路や壊れた家の跡などが残ったままになる。税金は、災害が起きた時に国民の生活を守るのに重要なものなのだ。私の住む朝倉も昨年七月に豪雨にまわられた。今、復旧作業を進めら

れるのも、税金や町の人の協力のおかげなのだ。復旧への道へと進めるのも当たり前ではなく、税金のおかげであることに改めて考えさせられた。

税金は、私達の生活をより良くするために、大きな役割を果たしているのだ。税金というところ、取られるイメージがあるが、私は、税金で得ることの方が遥かに多いと考えた。生活の中で税金に支えられている部分が誰しも大きくある。なので、国民一人一人が税金の使い道や問題に目を向けて、税金をより理解していく必要がある。大切な税金を無駄使いせず、有意義に使って欲しい。そして、災害にあわれた人に一日でも早く日常が戻ってくることを私は心から願う。



中学生の優秀作文

★国税庁長官賞

筑前町立 夜須中学校

三年 下川 遥叶

「暮らして税金」

税金は私達の生活を豊かにしてくれるものである。無償の教科書、公共図書館、国民医療費など様々な方面から私達の生活を支えてくれている。二〇二〇年、東京オリンピックの開催が決定し、日本はそれに向け着々と準備を進めている。税金は、新国立競技場や新しい道路標識の設置、多くの外国人に対応できる環境づくりにも役立てられている。

しかし私が、本当の意味で税金のありがたみを知り、こうした使われ方に興味が向くようになったのは、あの日がきっかけだった。

二〇一七年七月五日、九州北部を突如の豪雨が襲った。降り続く雨に大雨特別警報が発令され、私はすぐに帰宅した。家に着くと、テレビでは被害の状況が伝えられていた。そして、母の実家で、叔父の住む家がある地域へ繋がる道が全て崩落し、町が孤立しているという情報がながれてきた。母は、テレビの前でその映像をじっと見つめていた。会社の人に勧められ、家の様子を見に帰った叔父と、連絡がとれ

なくなつたというのだ。ニュースを見て、心配した親戚たちが母にも連絡をくれたが、その中にも本人と連絡がとれたと言う人はいなかった。次の日も雨は降り続き、叔父との連絡は途絶えたままだった。

雨が降り始めてから二日後の夜、ようやく叔父が見つかった。山奥で、途中たまたま居合わせた人達と一緒にいたところを自衛隊に救助されたのだ。雨の降る山中で三十時間も取り残され、衰弱しきつた様子だった。病院で治療を受け、元気になって退院した叔父は市の援助でアパートへ入居することができた。

それから数日後、その地域へつながる道が一つ復帰し、私は初めて叔父の家があった場所へ行くことができた。そこへ行くまでの見なれた道も、見なれた町も、全てが変わり果てていた。途中、車で通られなくなった道は歩いて進み、やっとなつたそこには、なにもなかった。叔父の家は雨で流され跡形もなく本当にここに家が建っていたのかさえわからなかった。あるのは自

分より何倍も大きな岩と、川を失くし、流れる場所を失った水の不規則な流動だけだった。

あれから一年と少しが経過した。復興が進み、もとの面影が見えるようになってきた。

仮設住宅の建設、瓦礫の撤去、壊れてしまった道の修繕、たくさんの人々を救った自衛隊の救助活動。税金は私たちの生活を豊かにするだけでなく、私たちの生活を守ってくれているということに気づくことができた。

普段のあたりまえの生活を送るだけでは、そのことを実感しにくいかもしれない。しかし、税は私たちの生活を守ってくれている、無くてはならないものなのだ。

消費税の増税に反対をする前に、税金によって豊かになっている今の生活に感謝をするべきだと私は思う。

★甘木税務署長賞

朝倉市立 十文字中学校

三年 篠原 希望

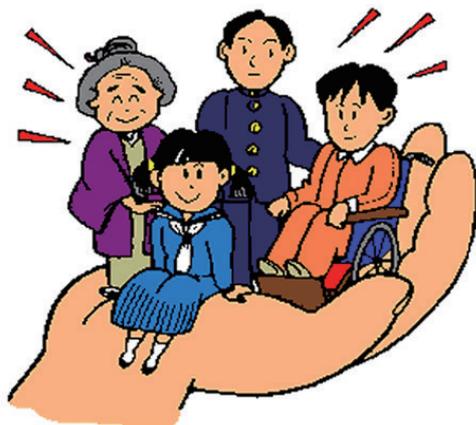
「福祉と税の結びつき」

飛び交う挨拶。施設全体を包むかのようにつよく笑い声。「素敵なお話だな」「居心地が良さそうだな」それが私の第一印象でした。

私は、今年の夏、福祉体験である在宅介護施設に二日間お世話になりました。そこでは利用者の方々とレクリエーションをしたり、介助をさせてい

ただいたりしました。この体験を通して、変わったなと思うことがあります。それは、私の税金への考え方にについてです。

その施設は、手すり、いすなど多く完備しており、浴室なども使いやすいよう工夫がほどこされてありました。「よく考えられているな」と私は感心



していました。しかし、それだけの施設を建設するにはずいぶんとお金がかかるだろう。そう考えた私は介護施設の建設費について調べてみました。そこで、税金が使われているということを知ったのです。

以前の私は、消費税がどんどん上がって迷惑だ。税金を多くとった所で私たちにあまり関係ないし、私たちの世代はどうせ少子高齢化が進んで年金もまともにもらえないだろう。そういう悪いイメージをもっていました。しかし、それは違いました。私は税金について、知識が足りなかっただけだったので。税金のおかげでこの施設の方は笑顔で楽しく生活できています。この事実を知った今、私は、もともと税金について知りたい。そう考えるようになりました。

また、私が税金に感謝しなければならぬ、そう考えることがつい最近おきました。その出来事とは親戚が老人ホームに入るとなったとき、介護保険を利用できたため、負担が少なくてすんだということです。介護保険とは介護が必要な方に費用を助けてくれる保

険のことで、保険料と税金で成り立っています。その出来事をうけ、私たちが何気なく暮らしてきたこの世の中は、税金で支えられていたのだと気づかされました。そして、以前までの私は、なんて無知だったのだろうと恥ずかしく思いました。

今、私が払っている税金は消費税だけです。だからといって、税金についてまだ詳しく知らなくていい、そう思うことはまちがっていると思います。いずれいろいろな場面で払うことになるからこそ、今学び、深めておくことが必要なのです。私は、今回経験した二つのことのおかげで考えることができました。

そして、これからはさらに学び、多くの人と税金についてどう考えるのか、交流できるようなりたいと思っっています。このようなことをするのも、税金を納め、社会に貢げんするたためです。そして、お年寄りの方々、子供たちなど多くの人々の笑顔を守るためにも社会に出た際はしっかりと納税します。

★甘木税務署長賞

朝倉市立 比良松中学校

三年 安部帆乃花

「ありがとう」

私は、二〇一七年七月五日に九州北部豪雨を経験しました。帰り道が道路

の冠水により通行禁止になってしまっていて、家に帰れなくなった私は、中

学校に迎えに来てくれていた母と車中泊することになりました。

次の日、遠まわりをしてなんとか家に帰ることができました。家は、どこも壊れたり、浸水することもなく、ライフラインも一つも途切れていませんでした。

ですが、家の周りは泥と流木でいっぱいでした。流木で道が通れなくなっていました。さらに、流木の上ですぐ近くの家の屋根があったのを見たときは驚きました。そこには、地方の人や救急隊員の人がいました。私の地区では行方不明者が三人いて、災害の次の日から、もう捜索が行われていたのです。近くにいる地区の方の行動の早さにも驚きましたが、災害の次の日に、もう救急隊員の人が来て下さっているのには、とても驚きました。

私と母は、家に帰った次の日から、家が行方不明者の方の家の近くだったので、家をボランティアの人達にご飯を食べたり、休憩したりできる場所にしました。私は、母や、地区の女性の方々、小学生の子達と協力して、ご飯を作ったり、運んだりといった手伝いをしました。また、自衛隊の方や、地域の消防団の方なども来てくださり、地区の男の人達と協力して行方不明者を探して下さいました。

そうして、地区の方、消防団の方、自衛隊の方、救急の方、たくさんの方が協力し合いお亡くなりになられてはいたものの、行方不明者の方三人全員を見つけることができました。また、流木や泥で塞がれていた道も通れるよ

うになりました。

私の地区もひどかったですが、杷木や東峰のほうもとてもひどかったのをよくテレビで見ました。ですが、自衛隊の方や、消防の方、救急隊員の方達などがすばやくかけつけてくれたり、復興の手助けをしてくれたことはとてもありがたいと思います。

私の家の周りは家が何軒も建て壊されています。私の地区の山のほうも、まだ元に戻ったとは言いがたい状況です。ですがそれでも、少しずつ復興していていると思います。

自衛隊も、救急も、消防も、税金で働いています。つまり復興のために税金はとても重要なのです。

自衛隊の方々、消防の方々、救急の方々、災害の時はありがとうございます。これからも頑張ってください。応援しています。



★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立比良松中学校

三年 星野はるか

「税金の大切さ」

私は、あまり税金の事について考えたことがありませんでした。買い物に行ったとき、税金で高くなっていて、嫌だなと思っていました。税金は、色々なものにお金がかかっています、本当に必要なものなのか疑問に思っていました。なので、私達の払っている税金は本当に必要なものなのか、何に使っているのかを調べてみました。すると、税金についてたくさんを知ることができました。

税金は、課税主体が国である国税と、地方公共団体である地方税があります。国税は、消費税、相続税、法人税などがあり、地方税は、住民税、自動車税、事業税などがあります。国税の数は、二十五種類あり、地方税は、二十六種類あることが分かりました。その事を知って、税金はたくさん種類があり、とてもおどろきました。もし、その税がなくなってしまうたらどうなるのだろうと疑問に思い、調べると、学校に通えなくなるかもしれないということや、交番や救急車を利用するとき、有料になるかもしれないことが分かり、税金の役割は、重要だと思えました。他にも、税がなくなってしまうと、ごみの収集がないので、町

がごみだらけになることや、教科書や机、黒板がないので、授業ができなくなるなど、税がないと困ることが他にもたくさんありました。税は、国民が安全で快適にくらすためだと分かりました。このように、私達が払っている税金は、何に使われているのかというと、私達が学校で使っている教科書などです。他にも、災害があつたときに、人命救助や財産の確保や、私達の日常生活に欠かせない道路や橋、空港などを整備して、利便性の確保を行っています。また、環境を守るために、公害対策やリサイクルなど、環境を保護したり、整備などに使われています。税金は、このように自分の必要なものにたくさん使われています。しかし、税金は国民のためだけに使われているものではなく、世界の人々のためにも使われていることが分かりました。世界には、貧困や飢餓に苦しんでいる人が多くいる地域があり、こうした地域の人達の生活環境を改善するためにも使われており、とてもびっくりしました。税金は、世界の人々を救うためにも使われていてすごいなと思えました。

このように、税金のことを調べてみ

て、税金は、とても身近なところに使われていて、なくてはならないと思えました。税金の種類など、初めて知ったことがあり、びっくりしました。私はこれまで、税金のことについてあまり考えたことがなかったけれど、税金は国民や、世界の人々も救っていることを知り、税金の大切さについて分かりました。

★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校

二年 貝島 漣

「税金」

税金。僕にとって、税金という言葉は、あまり身近なものではありません。くわしく、勉強したり、調べたりしたことも今までないからです。僕が直接支払ったことがある税金といえば、買い物をした時に支払う、八百パーセントの消費税くらいだと思います。ですが、この税金というものをとても身近に感じた出来事がありました。

二〇一七年、七月五日。九州北部豪雨が起きた日です。昼前から長時間、降り続いた雨は、夜になっても止まず、朝倉市、東峰村、大分県日田市に、大きな被害をもたらしました。僕の家は、旧国道三八六号線そばにありますが、甘木バスセンターや、銀行、郵便局、以前はアーケード商店街があったところでした。近くには、がけ崩れが起きるような山も、はんなりするよう



な大きな川もありません。まさかこんなところで、僕の家が水害にあうとは、僕も家族も思っていました。水は、国道の方から家の横の道をどんどん流れていました。側溝がないので、行き場のない水は、どんどん僕の家の前でたまっていました。車が通るたびに、水が家の中へ波のように入ってきました。初めは、ひざ下くらいだった水が、あつという間に、畳の上まできて、たんすの一番下のひき出しや、本棚の中の本、食器棚の下の部分、冷蔵庫など、一階に置いてあった、あらゆるものが水びたしになりました。次の日から、夏休みがはやまり休みになりましたが、毎日、家の後片付けが始まりました。一階の部分は全部屋がつかってしまったので、和室の畳を上げ、ぬれた本棚や食器棚、すべ

て中を出して、捨てるものと捨てないものをわけました。

何日たっても終わらない、後片付けが続いていた時、祖父が、市役所にり災証明書を発行してもらおうための申請をしました。聞いたことのない言葉ですが、調べてみると、り災証明とは、火災、風水害、地震などで被災した家屋や事業所などの被害の程度を証明する書類だと書かれていました。市町村が現地調査を行い発行するもので、全壊、大規模半壊、半壊、一部損壊など被害の程度で認定されます。土地家屋調査員の人がきて、調査をしてくれました。僕の家は、床上浸水にあたり、災害給付金が支給されました。

山間部や川の近くの家は、水だけでなく、たくさんの土砂が流れ込んで大きな被害にあわれた人達が大勢います。生活を立て直していいこうとする時、国や市町村に納めた税金がこうい

う災害時に役立っていることをとても身近に感じました。僕の家も、この災害給付金をもとに、一年たった今も、外のかべや、畳の入れかえ、床の張りかえをしています。

税金の使われ方が、目に見える形で、実感できたことは、僕にとって大事な経験だったと思います。



★**甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞**

朝倉市立 比良松中学校
三年 柳原 真夢

「**税がなければ**」

税。その言葉は私にとって「なん

ているのだろうか」という疑問なものだった。消費税、所得税、たくさん税があるがそれがなにに使われているのか分からない。しかし、私たちの身近な場所で、税がなくてはならない物

と知る出来事がおきた。

昨年七月五日。九州北部豪雨がおき、私たちの住む朝倉市も甚大な被害を受けた。何人もの方の命が奪われ、私の通っている中学校の一部も崩れてしまった。とても、いままで通りの生活ができるよ

うな状態ではなかった。そんななか、多くのボランティアの方が手伝いに来てくださった。そこで、人の優しさ協力することの大切さを知ることができた。復興が少しずつ進んでいくなかで、私は影で支えてくれる、あるものの存在に気づいた。それこそが税だ。税があったからこそ、災害での人命救助や財産の確保がすばやくおこなわれたと思う。今では私のなかで税は大切でなくてはならない「感謝」しなくてはいけないものになった。

税がなければと今はよく考える。今、私たちがあたり前だと思っ受けている学校教育。私たち中学生一人あたりに使われている税金は、月に約八万円。税がなければ、とても毎月にはらえない。税金が私たちの教育を支えてくれていることを知る必要があると思う。教育以外にも、私たちの生活は税によって助けられている。保健、医療、福祉の充実。警察署や消防署による公共サービスによる生活安全の維持で安心して暮らしている。

このように、国民全員が安心して暮らすためには、一人一人が税をきちんと納めることが必要だ。納税をすることで、その税金が私たちを支えてくれているのだ。しかし、税を納めることにたいして、マイナスのイメージをもって人も多くいると思う。私もそうだった。税がどのような役割をしているのかを知らなかったから。だからよく考えてほしい。税がなかったらどうなるのか。私たちがあたりまえにうけている教育、保健、医療、公共サービスがすべてなくなったらどうな

るか。私は身をもって感じた。税金がどれだけ大切か。これからは、納税者として、税金についてもっと関心をもち、より正しく理解できる人になりたいと思う。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立南陵中学校
三年 野坂 直矢

「税と僕たちの生活」

僕が税金ということばを初めて耳にしたのは、小学校六年生のときでした。そのときに税金とはどんなものかを教えてもらったけど、半分ぐらいしか理解できませんでした。そのようなことから、僕の税金に対するイメージは、「大人になったら払わないといけないお金」で、子どもである自分には全く関係がないものだと思っていました。

そして時は流れ、中学三年生になって、租税教室というものがありました。そこで、日本には消費税や所得税、登録免許税などたくさん種類の税金があつて、そのなかには子どもである自分たちにも関係がある税金があると知りました。そこで、僕にはある疑問が生まれました。それは、納めた税金はどこに行つて、何に使われるのだろうか。という疑問です。税金は、納められたあと、町の公共施設の設備を整えたり、自分たちが今うけている義務教育の費用に使われたり、医療や福祉の費用、警察署、消防署による公共サービスの費用として使われていると知り、つまり、税金とは、自分たちが安心、安全に生活したり教育をうけたりするのに欠かせないものだと分か

りました。

僕たちが住んでいる町、朝倉では、昨年の七月五日に、とても大きな豪雨による災害がありました。突然の大雨によつて河川があふれ、大量の土砂や流木が民家や町に流れこみ、町の住人は避難所での生活を余儀なくされました。当時、その様子をテレビで見た僕は、自分の故郷の変わり果てた姿に衝撃をうけるとともに、避難所での食料や水、がれきの撤去には相当な時間がかかり、大変だろうなと思いました。だけど町の機能は停止せず、復興もスムーズに進みました。避難所での食料や水がすぐに来たのも、がれきや土砂の撤去が素早くできたのも、行方不明者の捜さができたのも、全て税金があつたからだと思ひ、税金はなんて素晴らしいものなんだと感じ、なくてはならないのだと実感しました。きつと、東日本大震災でも、同じように税金によつて人々は救われていたと思います。

今の日本の憲法には、納税は国民の義務であるとされており、そもそも税金とはいつ始まったのか気になりました。そして、税は弥生時代や古墳時代からある歴史あるものだと知り、驚き

ました。

今自分がこうやって良い環境で教育をうけられるのも、税金のおかげなので、税という制度をつくった昔の人々に感謝し、税という素晴らしい制度をこれからの未来へ絶やさぬ役割を担っているのは自分たちなんだと思います。未来の日本や世界の国々が、税金でよりよい世界になっていきますように。

★朝倉市長賞

朝倉市立比良松中学校
三年 高瀬 ちえみ

「税金」

みなさん、「税金」について考えたことはありますか。私達が豊かな生活を送るためには「経済政策」、「公共事業」、「社会保障」などを充実させたりすることが大切です。しかし、それらは、個人や一つの企業だけで解決できるものではありません。そこで、これらの仕事を行っているのは、国や地方公共団体（都道府県や市町村）です。これらの仕事を行うためには、非常にたくさんの方々の費用がかかります。そこで、その費用を国民が法律に基づき負担しているものを「税金」といいます。「税金」とは、いわば私達が社会の一員として生活していくために支払う会費なのです。

では、そんな税金にはどのような働

きがあるのでしょか。まず一つ目は、個人や企業などの営利活動ではできない分野（警察、消防、裁判など）や道路・上下水道の整備などの公共事業に支出することにより、「公共サービス・社会資本」を均等に国内の全地域に提供する働きです。二つ目は、所得の多い人には大きい負担を、所得の少ない人には小さい負担をしてもらうことで、国民の所得の差を縮める働きです。また、「社会保障制度」を通じて失業者への雇用保険金、一人暮らしの高齢者など生活に困っている人々への生活保護や年金の給付を行い生活を助ける働きもあります。三つ目は、景気の良し悪しで、財政支出を減らしたり増やしたり、増税したり、減税し



たりする働きです。

では、税金はどのように使われているのでしょうか。「学校教育の振興」、「保健・医療・福祉の充実」、「生活の安全の維持」、「道路や交通機関の整備」など、私たちが納めた税金はいろんな身近なところに使われています。現に、去年の七月五日におきた九州北部豪雨でも税金が使われています。また、今年の七月六日におきた西日本豪雨でもさらに多くの税金が使われています。そして、二年後に行われる東京オリンピックにもさらに多くの税金が使われています。

このように、税金は私たちの身近なところに使われ、役立っています。そんな税金に、私たちは何ができるでしょうか。きちんと納めることはもちろんですが、私たちは、税金とは何か

をきちんと知っておく必要があると思います。そのために、税金についての資料や本を読みたいのです。そして、友達やあまり知らないであろう大人たちに税金のことを深くまで教えたいと思います。



★筑前町長賞

筑前町立夜須中学校
三年 齋田 さくら

「学びの中の税金」

私は、小学生のときに税についての学習を受けたことがあります。講師の方が小学校に来られ、税のしくみや必要性、役割について説明していただきました。そのときに、税金の種類については詳しく教えていただいたので今回税の作文を書くことになって、改めて日本の税金はどのような使われ方を

しているのか調べてみました。日本の税金で最も多く使われているのは社会保障費です。この税金は、子育て支援や介護、年金、医療費や生活保護費などに使われています。近年では高齢化が進み、社会保障費が膨らみすぎていくことが問題視され、使い道の見直しながなされているそうです。そ

の他にも過去の国債の返済や公共事業費、教育や文化振興に充てられている費用など税金は様々なものに使われています。私はこれらの税金の中から、学生として最も身近に感じられる、教育費に興味を持ちました。

私が初めて教育費に関心を持ったのは、中学校三年生になってからです。自分の進路について考えたときに、私立と公立の高校の違いを詳しく知りました。私立と公立ではいろいろな違いがあるけれど、一番の差は学費だと思っています。一年間にかかる平均の費用は私立高校では約百四万円かかるのに対し、公立高校は約四十五万円で通うことができるそうです。この差は国の支援によって生まれます。公立の高校生一人あたり九十一万円国が負担しているそうです。小学校から高校まで、一人あたり約一千万円の税が使われています。私は今までそんな大金に関わったことはないけど、どれだけ大きなお金かは分かります。このお金の日本中の子ども達分を考えると、想像できないくらい教育費が税金から出ていることを考えると、税金に対する見方がかわってくると思います。

教育に関わる税金について調べて、改めて考えてみて、自分の中で無意識に税金があるのはお年寄りの方の支援や災害のときに使われるものだと思っていたかもしれないと感じました。でも全然そんなことはなくて、税金はただ一部の人のためだけにあって、税金はなくて、子どもや学生、お年寄はもちろん、どんな人とも深く関わっている

と改めて意識しなおすことができました。また、自分は今まであたりまえのように小・中学校で勉強をしてきたけれど、日本の国民のいろんな人たちがいろんな思いで貯めたお金の一部を税金として、使わせてもらって、勉強ができていると思うとなんだか不思議な気分です。この税、この時間を大切にしなければ、と思えてきます。



★東峰村長賞

東峰村立 東峰中学校
三年 和田 暖

「税について」

もし、国がいきなり「税金をなくします」と言ったなら世の中はどうなるのだろうか。最初のうちは喜ぶ人も多いのではないだろうか。しかし、そのうちに大変な事になったと実感するのだろう。

私は、数週間前に学校で租税教室という税についての授業を受けた。そこでは税について詳しく教えてもらった。そして生活していくうえで税がどれだけ重要か知ることができた。恥ずかしい話、私は小学生の時には税と聞いたら消費税くらいしか思い浮かばなかったし、中学生になっても、少し知識は増えたものの、いつかの「議員さんが国のお金を不正に使っていた」というようなニュースがぼわんと思いつかぶただけでまだあいまいだった。

もちろん、税はなくてはならないものだと思ってもらっていたし、教えてもらったその時は「税って大切なんだな、ちゃんと払う人にならなきゃな」と思っていた。しかし、いざ、税金を納めるチャンスがやってくると、「消費税なかったらこのお菓子、ワンコインで買えるのに」などと思ってしまう。

こんな私だったが、今回租税教室の

授業を受けて、税金が何に使われているか改めて知り、ただただ自己中心的な自分の考えが恥ずかしくなった。別に税金は国の偉い人達が自分の趣味に使っているわけではないし、自分達と全然関係のない所に使われているわけでもなかった。この日本で暮らす人々が少しでも快適に生活できるように、人々のよりよい生活を保障するために、使われていたのだ。

もし、税金の制度をなくしたら、その時は、最初だけは、生活が楽になるかもしれない。しかし、少しずつ時間が経っていくと、税金のなくなった社会の端々で「不便」が積み重なっていくだろう。例えば道路。整備されていない道路はどれだけ不便か。有料だったらどれだけ困るか。例えば福祉施設。高齢化が進む中で福祉施設は増えず、また払うお金も高くなれば高齢者の苦しみも、周囲の苦しみもどれだけ大きくなるか。例えば保育施設。待機児童が多い事が問題になっているにも関わらず保育施設の利用が困難になればどれだけ悪環境か。小学生、中学生は教科書も、学校の机や椅子も税金でまかなわれている。

税について知らなければ、ただ、

何々税、何とか税、とお金を払わなくてはいけないだけのシステムとしか思えず不満しか湧かない。しかし、少しでも税について知識を持てればどうだろう。税金が私達の暮らしにどれほどのものを与えてくれてるのか。そして税金を納める人にどれほどの人が助けられているか。

税金が、人々の暮らしに役立てられることを誰もが望んでいる。もちろん、自分自身の生活のためにも、そして、自分の周りの人の生活のためにも。私はまだ自分で働いたお金で税金を納めている立場ではないから分からないことだらけだ。しかし、税金の制

度に人を思いやれる気持ちが不可欠な事は分かった。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校
二年 荻野 美月

「税について」

平成二十九年七月五日から六日にかけて福岡県と大分県を中心に起きた九州北部豪雨。私の地域はそこまで被害がなかったものの、うきは市、久留米市、東峰村などの地域では、私の想像を超える被害にあっていた。しかも朝倉市で三十四人、東峰村で三人の方が亡くなっていた。

私は、その困っている人達の助けになればと思い、ボランティアに参加した。そして、白木という所に行った。家は泥でいっぱい床もはがれ、骨組

みだけとなり、その家には、家族の写真などが貼られていて、思い出がたくさん詰まった大切な場所だったんだとその時、私は実感した。もしも、私がそうなってしまったら。そう考えると急に怖くなった。そして、学校に行くとき自衛隊の車が通っているのを何回も見た。学校に行くときその話題を持ちきりだった。そこで私は初めて、派遣された自衛隊や支援助物の送付費用などに税金は使われているということを知った。税は、私達が勉強する時に

租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



甘木朝倉地区 税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内
青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内
納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

★何をしようとする団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。